

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	外国語学部	中国語学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	静宜大学 (台湾)		
所属プログラム・ 学部・研究科	中国文学系		
報告書提出日	2019年9月20日		
留学予定期間	2019年9月～2020年1月		

1. 渡航について

1.1. 出発前の準備

出願料・宿舎デポジット： 550 (TWD) /合計

航空券代： 45,448 (円) /合計

ビザ申請関連費： 10,500 (円) /合計

その他 (): (通貨入力) /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

6月初旬に受け入れ許可証が国際センターに届き、それと同時に寮の案内、ビザ申請の案内、スケジュール表などが配られる。

その一週間後くらいに留学先大学から現地ピックアップなどの案内が届く。

7月初旬にビザ申請用の健康診断を受ける。(麻疹、胸部エックス線など)

7月下旬に健康診断の結果が届くと同時期に航空券の予約をする。ビザの申請資料が全て揃ったのでビザを申請。

国際センターに提出すべき書類を全て提出。

海外で仕事をしていた叔父や、静宜大学に留学をしていた先輩などに相談をしながらすべての準備を終わらせる。

予防接種を受けなければいけないのに遅めの段階から始めてしまった。全ての予防接種を受けることはできたが、もう少し遅ければ終わっていなかったので何事も余裕をもって準備することが大事。何より、私には同じ大学に留学をしていた先輩がいたので色々と質問をしながら準備できたものの、一人では終わることができなかつたと思うので遠慮せずに人に頼ることも大事だと感じた。

1.2. 渡航について

ピックアップの関係もあり、直行便ではちょうどいい時間の飛行機がなかったため関西空港経由で台湾の桃園国際空港に向かった。

留学先の大学が空港にてピックアップのサービスをしてくれたので、何も困ることなく大学に到着することができた。

空港から大学の寮まではバスで、3時間弱で到着した。

2. 到着後の手続きについて

2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

入寮については事前に留学先大学のオンライン申請書にて申請。デポジット 550TWD を支払った。到着日に枕やシーツ掛布団などのベッド用品の料金 2,000TWD を支払い、電気代などの寮の料金 12,650TWD を支払った。支払方法はどちらも現金のみだった。

ルームメイトの到着時間はまばらで私が一番先に部屋に到着していた。ほとんどの場合留学生同士がルームメイトだった。私の部屋は日本人三人にインドネシア人一人の四人部屋でしたが、日本人一人が寮側の手違いだったため部屋を移動しなければいけなくなった。結局、日本人二人のインドネシア人一人の三人部屋となった。しかし、一週間を過ぎたあたりでインドネシア人一人が新しいルームメイトとしてやってきた。

寮にキッチンがなく、熱いお湯を沸かす場所もレンジも冷蔵庫もなかった。寮のエントランスには 24 時間体制でスタッフの方が駐在していて、廊下にはたくさんの防犯カメラがあり思っていたよりもセキュリティがしっかりしていたので安心した。しかし、鍵付きの引き出しなどが無いので、しっかりと貴重品は自分で管理しておかなければいけないと思った。

2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

他の国は分からないが、台湾では在留届がオンラインで提出することができた。私の場合、半年留学なので書類の提出は必要ないと大学先の先生に言われた。しかし、停留期限が 90 日間なので延長しなければいけないと言われた。オンライン申請だったので、料金は発生しなかった。

2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイスメントテスト等の学内手続き

9月

5日 オリエンテーション：校内の説明、教師陣の紹介、留学生サポーターの紹介、寮代の内訳や支払う場所の説明、これからのスケジュールの説明、学校行事の説明など。

6日午前 コース選択、第1回目履修登録：パソコンルームにてコース選択。神奈川大学と同じようにパソコンにてコース登録を行うが、履修は早い者勝ちで制限人数に達した場合履修できない。授業の説明や履修の登録の仕方などは、留学先大学の日本語学科の生徒が手助けをしてくれた。

6日午後 プレイスメントテスト：これによって中国語の授業のクラスが決まる。10日から13日の間にクラス発表。

7日 バーベキュー：バスで1時間ほどの場所で留学生同士の仲を深めるためバーベキューを開催。IFBという留学生サポーターたちとともに過ごした。

9日 授業開始：一般教養の授業が開始

12日 留学生歓迎会：留学先大学でのパートナーとなる日本語学科の生徒と会う（日本人限定）

16日 第2回履修登録、中国語の授業開始：変えたい授業などの履修登録日

17日 パートナーと会う日：日本人に限らず留学生全体がパートナーに会う日

3. 目標について

3.1. 留学の目的、達成目標

留学に来る前は、現地の方々とスムーズに話せるようになり職に就いたときに生かせるくらいの中国語力をつけたいと思っていた。しかし、留学に来てから注文もろくにできないくらい自分には中国語力がないと気づき、ただ机に向かって勉強するだけでは身につかないことを知ったので、台湾人の友人とスムーズにナチュラルに会話ができるほどに中国語を身に着けたいと思っている。帰国したらすぐに HSK の 4 級を取得、その後 5 級も取得。今不得意としているスピーキングを克服したい。今私が興味のある「文化よっての違い」を具体化し、何が一番文化の違いを感じるか詳細化してそのことについて考えていきたい。今のところ文化による家具の違いに興味を抱いている。

3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

自分が大学入学時から学んできた簡体字ではなく、繁体字を主に使う台湾に留学が決まったので繁体字を読めるよう台湾の番組や音楽などを見てきた。実際に台湾についてみると、音楽や番組などで目と耳は慣れているものの聞き取ることとスピーキングはとても難しいと感じている。なので、台湾人の友人などと会話するときに分からないところや読み方が微妙なところを中心に教えてもらいながら学習している。これからも継続して積極的にわからないところを聞きながら話す機会を増やしていきたい。

3.3. 今月の学習・研修目標

今月の目標はまだネイティブスピーカーの友人が少ないため授業や様々な活動を通して増やし、中国語を話す機会を増やす。中国語の授業はほとんど英語で進められるためしっかりと理解することができなかった部分などは、先生や友人に聞いて一つも溢さず学習していきたい。台湾は親日な人が多いため飲食店などでも日本人に興味を持って話しかけてくれることが多く、日本語が全くできない現地の方々と交流する機会が多くあるのでリスニングとスピーキングが鍛えられる。なので寮にこもりがちにならず外に出て自ら中国語に触れていきたい。日本語が喋れるパートナーの人とも時間を決めて中国語を教えてもらいたいと考えている。

4. 学修について

4.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	中文課(9:10~12:00) 経貿日本(17:10~18:55)
火	中文課(9:10~12:00) 近代台日経済史(15:10~17:00)
水	中文課(9:10~12:00)
木	中文課(9:10~12:00) 日中翻訳理論(13:10~15:00)
金	中文課(9:10~12:00)
土	
日	

4.2. 授業について

①中文課：3コマ、週5

概要：中国語（繁体字）と英語を用いて中国語の学習をする。

特徴：レベル別、少人数体制。自分のクラスでは日本人4人、アメリカ人1人、イタリア人1人、ベトナム人1人、ハンガリー人1人の合計8人で行われている。現地の学生はおらず、全員交換留学生。全員理解したことを確認しながら授業が行われるため理解できなかった部分はすぐに質問ができる。文法を習ったらその文法を使って自分で文を作成し口に出して読み間違っている部分があれば分かりやすく説明してくれる。しかし、単語の訂正はしてくれるものの声調の訂正はあまりされないで自分自身で気を付けていきたい。

評価の方法：授業態度10%、期末試験15%、中間試験15%、出席率20%、宿題20%、授業内質疑応答20%

アドバイス：プレイスメントテストによってクラス分けがされるが、多くの交換留学生がクラス変更を申し出ている。私も実際に、一回目の授業はプレイスメントテストによってクラス分けされたクラスを受けたが繁体字が読めず授業が進むスピードも速すぎてついていけなかったため、事務所に申し出てクラス変更をさせてもらった。なので、我慢せずに自分にあったクラスの授業を受けることをお勧めしたい。

②経貿日文：2コマ、週1

概要：ビジネスで使用する日本語を学ぶ。

特徴：この授業は主に日本語学科の生徒と行うため、交流が図れる。授業の進むスピードは速くなく、日本人も台湾人も理解できたか確認しながら進められる。大きい教室で行われ、学生の人数も多い。授業の課題としてFacebookを用いて学んだことの動画をアップロードしそれを先生が確認する。例えば、その日に日本語での自己紹介を学んだとしたらその内容を生徒同士で自己紹介をしあう動画をアップロードする。

評価の仕方：日本人学生は特に言われていない

アドバイス：この授業は前述したとおり、日本語学科の生徒と行うので台湾人の友達ができる。しかも先生が配慮してくれて「これは中国語ではどのように言うか台湾人が日本人に教えてあげてください。」など、教え合うこと促してくれるのでとても良い授業だと思う。この授業を受けている中で、自分の日本語の不完全さに気づいたのでちゃんとした社会でも通用する日本語を勉強してくるべきだと思った。なのでこの授業を受けるなら日本語も少し勉強してくるべきだと思う。

③近代台日経済史：2コマ、週1

概要：台湾の概況、歴史、経済史、経済発展段階、経済の発展要因、直面している問題とその対策、メリット、中国との関係などを学ぶ。

特徴：日本人交換留学生用の授業で、30人ほどで行われている。一つのことに対し、自分たちで考え先生に当てられたら自分たちの考えたことを答えるという形で授業が行われる。例えば、台湾では国交や国際交流をどのように行っているかなど。

評価の仕方：日本語読解能力10%、日本語会話能力10%、日本語を聞き取る能力10%、日本語を翻訳する能力10%、異文化を通して日本の商務を知る能力60%

アドバイス：台湾の歴史についての授業なので、ある程度台湾ではどういう歴史があったか大体でいいので学習してくると授業が受けやすいと思う。

④日中翻訳理論：2コマ、週1

概要：教材やネットに掲載されている台湾と関係のある文献を日本語から中国語に翻訳する授業。三人組で行う。この授業も交換留学生用の授業。

特徴：グループ学習、この授業はある程度中国語の単語や文法を理解していないと難しい授業。一週目から五週目まで先生が決めた文献をグループで翻訳するが5週目以降は自分たち生徒が決めた文献を翻訳していく。一日に二コマあり、一コマ目に配られた文献を三つに分け、自分に配られたものを翻訳する。二コマ目は先生に当てられたら自分の翻訳したものを読み上げる。その文章が間違っていれば訂正され、間違っていなければそのまま。先生の高等翻訳を聞いて、自分の翻訳が間違っていたら赤ペンで修正する。といった授業。

評価の仕方：出席率15%、当てられた時の翻訳15%、その後の翻訳20%、中間テスト20%、期末テスト20%、期末に提出する翻訳10% もし Google 翻訳を使用したら成績ゼロ。

アドバイス：難しい単語や文法がたくさん出てくるので、分からない単語は自分で事前に調べ文法もある程度頭に入れておかないと難しい授業。しかし、これをきっかけにたくさん単語や文法が学べるし、分からないところがあれば台湾人の友人に聞いて仲を深めることができるので良い授業だと思う。私がとった授業の中で一番難しい授業だと思う。

4.3. 予習・復習・自習について

①の授業の予習は授業の最後に次はどこをやるといったことを告げられるので、先にその部分をノートに書き写したりわからない単語の意味を辞書で調べている。復習はその日やって分からなかった部分をもう一度見返して間違っている部分などを書き出して復習している。

②の授業はその日に教えてもらった中国語などをノートにまとめている。

③の授業は情報量が多いので、自分でしっかりと理解できるように部屋に戻ってからノートにまとめている。

④の授業は事前に文献が配られるのでその文を翻訳して、分からないところがあれば同じグループのメンバーに聞いて勉強している。

全ての授業で行っていることは、一回で聞いても理解できず先生にも質問できなかったことなどが多々あるので授業を録音して部屋で分からなかった部分や発音が難しいものを完全に理解できるまで繰り返して勉強している。留学に来てから台湾人の学生に日本語を教えるボランティアに興味を持ち、初級日本語の授業にボランティアとして参加している。台湾人の学生はあまり日本語が話せないので、私も中国語の勉強になるし相手にとっても日本語の勉強になっていると思う。

5. 生活について

5.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
----	------------

台湾の料理は日本人の口に合うという話を聞いていたが、本当にその通りで今まで食べた食べ物はすべておいしかった。しかし同じ日本人の友達は八角が苦手な台湾の料理にはほとんど八角が使用されているので大変そうだった。

寮には Wi-Fi が飛んでいるという話を聞いていたが、確かに飛んではいるがエントランス部分にしか届かず 5 階にある部屋までは飛んでこないの SIM カードも Wi-Fi も借りていない友達が苦労していた。

私は Wi-Fi を借りて過ごしているが、最初に借りた Wi-Fi は自分自身の手違いで使い物にならず台北にある本店まで行って台湾で使える Wi-Fi に変えてもらった。

留学前に自分が考えていたよりも治安はいいが、日本と比にならないくらいバイクの数が多く歩道でも歩行者優先というよりもバイク優先という感じがある。

寮のトイレやシャワーは共用で、日本以外だとほとんどそうだと思うがトイレは和式。ペーパーを流せないためかとても臭う。シャワーはトイレの個室のように個室が 10 個ほど並んでいて浴槽はない。不便だと感じた。こういったことが嫌だとか、慣れていない人は絶対に一人暮らしが良いと思う。

私が住んでいるのは少し田舎な所なので英語が全然通じないお店が多い。なのであまり中国語が話せない人は翻訳機能を使って注文をしている。

今のところ、大学の先生や友人に手伝ってもらっているため困ったこともあまりなく過ごせている。

5.2. 課外活動について

休日は今のところ住んでいるところより栄えている場所に行って洋服を買ったりしている、台北にも行ったが夜遅くに歩くのは怖いので朝早く行動をしても 3 時間ほどしかいられなかった。

台湾人の友人が欲しいのでサークルに入りたいと考えてはいるが、勉強と両立できるのかが不安なので今もなお悩んでいる。とりあえず体験だけは行ってみたい。サークルを見ていたところ自分ができるのがダンスくらいなのでダンスサークルの体験に行きたいと考えている。

5.3. 現在までの感想

前述したとおり、日本で学んできたことをあまり活かすことができず 1 年半も学んできたのは何だったのだろうと思い、気持ちがとても下がっているところがあります。しかし、ここで諦めては留学に来た意味がないので少しずつ落ち着いて自分の実力をつけていきたいです。台湾は親日国なので現地の学生の多くが日本の文化であったり言語などに興味を持っている場合が多いように感じています。日本語学科の生徒はネイティブ並みに日本語が話せる人がほとんどです。一緒にいて日本語が通じる点では気持ち的にも楽ではありますが、自分の中国語力をつけていきたいという点ではあまり有効的ではないと思うので日本語が全くしゃべれない学生と交流していきたいです。ですが、ほとんど通じない人だと話すのが疲れると感じさせてしまい仲良くなれないような気がするので、日本語学科の生徒とも時間を決めて中国語を話していけたらと思います。（例：一時間日本語、一時間中国語）。まずは今の目標として、注文がスムーズにできないので注文をスムーズにできるようにするのが今のところの目標です。これから、授業を受けていくにつれ理解できないことやしっかり身につかないようなことが多く出てくると思います。ですがしっかりと実になるよう励みたいです。

以上

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（11月）

所属	外国語学部	中国語	学科 専攻
派遣先大学 (国)	静宜大学 (台湾)		
所属プログラム・ 学部・研究科	中国文学科		
報告書提出日	2019年11月2日		

1. 目標について

1.1. 留学の目的、達成目標

前回の「留学の目的、達成目標」に記述していた、飲食店で注文ができないという点は二か月間過ごす中で台湾の注文の仕方に慣れたからかスムーズに行えるようになった。しかし、いつも通りでないことを店員から言われるとうまく切り返すことができないのでまだまだだと思ふ。日本にいる時よりも抵抗なく中国語を話すことができるようにはなったが、いろいろな文法がある中で一番簡単な文法しか使えていないのでHSK四級五級を目指すのならばもっと色々な文法を活用していかなければならないと考える。日本にいる時には音楽を聴きながら道を歩くことが多かったが、より多く中国語を聞きたいと思ふバスの中などでも本来はいけないことではあるが人の話を聞いたりして理解できない部分はすぐに検索をして理解できるようにしている。HSK四級五級の取得もそうだが、中国語検定の取得も考えているところだ。

1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

今でもやはり習ってきた簡体字でなく繁体字なことに違和感を覚えるもの前より読めてきてはいる。それは授業後などに中国語の先生や台湾人の友人にすぐに質問しているからだろう。先月は分からなかったらすぐに質問をして後回しにしないという点に重点を置いていた。それ以外にも、留学生担当の先生が台湾人学生との交流の機会をたくさん作ってくれるのでそういったところに積極的に参加して交流の機会を増やしている。前回記述した台湾人の友人と会話する機会を増やす、といったところは達成できていると思う。会話をする中で分からない単語に突っかかってしまい会話が理解できないことが多いので、今月はリスニングをもっと強化していきたいと思う。

1.3. 今月の学習・研修目標

今月は前述したようにリスニングをもっと強化していきたいと思う。そのためには単語の数をもっと増やして勉強しなければならないと考えている。日本語で会話するときや考え事をするときも頭の中で中国語ではどういう言い方をするのか考えながら生活することで語彙や単語をもっと増やせるのではないかと思ふ意識して生活していきたい。ある程度台湾人の友人はできて気張らずに楽に接することが増えたので、これを機にもっと色々な場所にいたり会話の機会を増やしてとにかく中国語を話す機会を増やしていきたい。

2. 学修について

2.1. 授業について

①中文課

概要：中国語と英語を用いて授業を進める。

内容：その日に学んだ文法、例えば道案内などは具体的に大学内の建物を使って学んだ文法で説明をしたりしてとても分かりやすく学ぶことができている。ほかにも、作文で自分の国を紹介したり自分の国の食べ物の初回などをしたりして作文能力の向上もできている。

進捗：しっかりと一人一人が理解して進めているかどうかを一つの文法ごとに作文をさせて、できていないようであればもっと詳しく説明をしてしっかり理解できたかどうか確認してから進む。ちょうどよく、生徒にあったスピードで進んでいると思う。

理解度：上記で述べたように一人一人理解しているかどうか確認しながら進むため、授業の内容はよく理解できていると思う。分からない単語などがあればすぐに質問できているためよく理解できている。前回から変わらず分かりやすい授業である。

②経貿日文

概要：ビジネスで使用する日本語を学ぶ。

内容：静宜大学の日本語学科の学生がビジネスをする場面で使用する日本語を学ぶ授業。日本人の交換留学生は台湾人学生のサポートをする。

進捗：少し進捗が早い気がする。この授業は主にパワーポイントと動画を使用して進めるので、その都度スクリーンを写真に撮って授業後に部屋で復習をすることが多い。

理解度：日本人ではあるが、まだ学生のためビジネスの場面で使う言葉がたまにわからないことがある。なので私自身も学ぶことが多い。日本人であるので、よく理解できていると思う。

③近代台日経済史

概要：台湾の概況、歴史、経済史、経済発展段階、経済の発展要因、直面している問題とその対策、メリット、中国との関係などを学ぶ。

内容：主に概要に書いてあることをスクリーンを用いて学ぶ。台湾の発展のためにはどういう対策を取るべきか、など自分たちで考える時間をとりその後発表をしたりする。

進捗：頭の中ですべてを理解しきる前に次の画面に映ってしまうことが多く私には少し早いように感じる人が多い。なので、録音をして部屋に戻ってから復習をしている。

理解度：日本的感覚で授業を受けているとわからないことが多いので、日々当たり前だと思っていることをなぜなのかと問われたときに回答することができないときがある。日本的感覚のせいで理解することが難しい場面もあれば、理解できる場面もある。分からない時はすぐに先生に質問をしているので理解度は高いと思う。

④日中翻訳理論

概要：教材などに掲載されている日本語を中国語に翻訳する授業。交換留学生用の授業。

内容：授業の数日前に送られてくる日本語の文章を自分自身で翻訳して、授業でその翻訳を確認しながら間違っているところは赤ペンで訂正していく。全て翻訳をし終わったら授業の終わりごろにノートを

写真に撮り先生に送る。

進度：少し早いように感じるが、難しい文法のところは詳しく説明してくれるのでちょうどよいと感じる。

理解度：自分自身で翻訳したものと先生の翻訳が合っているところはかなり少ないが、とても勉強になる授業。この授業で習った言葉はよく会話で使えるので、良い授業だと思う。理解度としては、かなり難しいことが多いので大変ではあるが分からないようなところは先生が説明を詳しくしてくれるのでよく理解できている。

2.2. 予習・復習・自習について

①中文課。事前に先生から授業の学習用予定表をもらっているなので、それを確認して次やる場所に分からない単語がないか確認して分からないところがあれば分かるようにしておく。復習は授業内で分からなかった部分を授業後に先生に質問をして頭の中で理解できるようにして、部屋に帰ってから本当に理解できたかどうかをドリルを使って確認したりして学んでいる。

②経貿日文。学んだ内容を録音したものを聞きながら復習をしている。

③近代台日経済史。分からなかった部分などを自分で確認したり先生に聞きに行ったりして吸収している。

④日中翻訳理論。その日習った文法などで分からない部分があったら台湾の友人に聞いて理解している。赤ペンで直すだけでなく発音など確認するためにピンインを書いて、しっかりと読めるようにしている。

2.3. 語学力について

日本にいた時よりも話すことに抵抗はなくなり、留学に来てすぐの時よりも語彙力が増えてきているのを感じてはいるが、まだまだ読めない字は多く自分の言いたいことを中国語でしっかりと伝えることはまだ難しい。台湾人学生と交流をする機会は増え、話す機会も増えてはいるものの日本語学科の学生の場合が多いので私が中国語を話して理解できなかつたら日本語で対応をしてくれることが多い。うれしいことではあるものの、やはり自分にとっては勉強にならないので日本語を話せない人と交流を持ちたいと考えている。正直、今留学に来てから確かに読める漢字が増えてきていることは分かるが日本にいる時よりも自分の中国語力が上がってきているという実感はない。

3. 生活について

3.1. 衣食住について

住居	学内寮（その他： ）
----	------------------

台湾人の友人が増えたので、一緒にご飯を食べに行く機会も増えた。今のところ食べられないような食べ物には出会ってはいないものの、同じ日本人のルームメイトが食べに行ったその日の夜に嘔吐を繰り返す数日間寝込んでいて、同じ店に食べに行った日本人三人が同じような症状がありその内の一人は入院をしていたのですべての食べ物が安全ではないことを目の当たりにして、国の違いを感じた。細心の注意が必要だと思った。寮については最初の時と比べて、お手洗いやシャワールームの抵抗はなくなった。が、一人の時間がないとストレスがたまるという人には厳しいだろうと思う。11月に入ってもなお気温が20度後半なので半そでで過ごせてはいるが、私の住んでいる台中市は風がとても強いのでたまに寒い日がある。半そでしか持ってきていないので、羽織を持ってくればよかったと後悔している。

最近デング熱がバス停の5駅先あたりではやっているの、蚊によく注意しなければならない。台湾に来る際に虫よけを大量に持ってきていたので、台湾に来てからあまり蚊に刺されることはないが気を抜かず気を付けていきたい。

3.2. 課外活動について

台湾は夜市が有名なので、休日は有名な夜市に台湾人の友人がよく連れて行ってくれる。何も予定がない日は宿題が多いので、部屋で勉強することが多い。夜はルームメイトたちとご飯を食べに行ったりもする。サークル活動はダンスサークルに入るのをやめて神奈川大学で入っているサークルと似たようなギターサークルに参加した。一から弾き方を教えてくれるため、サークルというよりは部活に近いと感じる。これはギターサークルだけでなく他のサークルも同じだと聞いた。

3.3. 現在までの感想

留学に来て一番良いと思うところは、中国語を話さなければいけない場面があるということだ。日本だと英語の授業であれ中国語の授業であれ、答えられないでいると日本語で先生がサポートしてくれるが留学に来るとほとんどの先生は日本語が話せないで自分自身の力でどうにかして頑張るしかない。普段生活する中でも、飲食店では中で食べるか持ち帰りかを言わなければならない。みんなが好きなタピオカも持ち帰り、飲み物の種類、サイズ、タピオカの種類、甘さ、氷の量などを言わなければならない。一番驚いたのは、コンビニでコピーをしたい場合店員に言わなければいけないということだ。だからこそ話す機会を増やしたい人は留学に来るべきだと思う。最近の小さな悩みとしては、自分の中国語力の成長が分からず本当にちゃんと学べているのかどうか不安になるということだ。検定試験などの問題を解いてみて自分の実力を試してみたいと思う。最初は長いと思っていた留学だが、気づいたら2か月たっていて残すところ2か月。もっと中国語力を上げて帰国したら胸を張って留学に行って成長できたということが言えるように、今はコツコツと勉強をしていきたいと思う。

以上

神奈川県立大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	中国語学科	2 年次
派遣先大学 (国)	静宜大学 (台湾)			
所属プログラム・ 学部・研究科	中国文学科	履修言語	中国語	
留学期間	2019 年 9 月～2020 年 1 月			
報告書提出日	2020 年 1 月			

1. 学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
Fall Semester	9 月 9 日 ～1 月 3 日 (17 週)	1 月 6 日 ～1 月 10 日	寮に入居する際に受け取った冊子に日本人学生のためのシラバスが記載されており、そのシラバスを見ながら各自取りたい授業を考えておく。日本人の先生が PC ルームを日本人学生のために用意してくださっていたので、その部屋に向かい先生に登録の仕方を教えてもらいながら全員で一斉に登録をした。期間は9月6日と9月16日の二日間だけで、間違えたら教務課に行かなければ訂正できないようになっていた。

1.2. 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間 (内訳)	履修内容・授業での取り組み
Fall Semester	日中翻譯理論	24.9 時間 0.83(時間/回) ×2(回/週) ×15(週)	講義は木曜日に13:10～14:00、14:10～15:00と休憩時間を挟んで行われる。講義の内容は授業の数日前に送られてくる日本語の文章を自分自身で翻訳して、授業でその翻訳を確認しながら間違っているところは赤ペンで訂正していく。全て翻訳をし終わったら授業の終わりごろにノートを写真に撮り先生に送るといふもの。翻訳をしっかりと自分でしてきたかどうか、出欠席を取るときにノートを見せて

			<p>確認される。授業内で名簿を見ながらランダムに当てられて、当たった人は翻訳前の日本語の文章を声に出して読んだ後、自分が訳してきたものを声に出して読む。中間試験は、今まで授業で取り扱ってきた呼ばれた人から先生の前で中国語で音読をする。その際に、発音が間違っていたところは先生に訂正される。その対策として、今までやってきた翻訳の文章を何度も繰り返し読み台湾人の友人に聞いてもらい訂正してもらいながら練習をした。しかし、中間試験の後からは毎週授業の最後に先週やった内容を数名が音読してそれによって成績がつけられていた。期末試験は、日本語で書かれた文章を翻訳するというもの。LINE で日本語の文章が送られてきて、配られた紙に書く。携帯は使用可能で、わからないところは調べて書いて良いという試験だった。今まで翻訳をした文章をみて、自分で改めて翻訳をし直し対策をした。</p>
Fall Semester	近代台日経済史	24.9 時間	<p>講義は火曜の15:10~16:00、16:10~17:00の二連続。講義内容は台湾の概況、歴史、経済史、経済発展段階、経済の発展要因、直面している問題とその対策、メリット、中国との関係などを学ぶ。主に概要に書いてあることについてスクリーンを用いて学ぶ。台湾の発展のためにはどういう対策を取るべきか、など自分たちで考える時間をとりその後発表をしたりするというもの。中間試験後からの講義は、最大4人までのグループを自分たちで組み、台湾と日本の違いについて経済を結び付けて考えパワーポイントにまとめて発表した。中間試験は先生がLINEにて配布をしたアンケートに答えるもので、内容はなぜこの授業を取ったか。この授業で何を学んできたか。スクリーンを用いた授業方式がとられているが、どう思うか。問題提起をしてそのあとすぐに答えをスクリーンに映し出さず、自分で考える時間を設けているがこの方式をどう思うか。など。試験の対策は何もしなかった。期末試験も同様にアンケートだった。内容は中間試験のときのアンケートと変わらないものだった。</p>
		0.83(時間/回) ×2(回/週) ×15(週)	
Fall Semester	経貿日文	24.9 時間	<p>講義は月曜の17:10~18:00、18:05~18:55の二連続。講義内容は、静宜大学の日本語学科の学生がビジネスをする場面で使用する日本語を学ぶ授業。日本人の交換留学生は台湾人学生のサポートをする。例えば、電話の取り方、ビジネス文書の書き方、敬語の種類など。日本人でもわかっている人が少ないような季語なども学んだ。日本人は、ビジネスで使う日本語を中国語訳して言う練習もした。授業の最後には、その日に学んだ内容を会話形式にして録画をして</p>
		0.83(時間/回) ×2(回/週) ×15(週)	

			Facebook の授業のグループにアップロードをする。中間試験は、敬語の種類、日本語の読み方、文書の訂正など。対策としては、中間試験以前に学んでいた内容を見返したり、Facebook に載せた内容を見返して思い出したりした。期末試験は、月によっての候、場面によって使うべき連絡手段、日本語の読み方など。対策は中間試験の時と同じでノートやFacebook の動画を見返した。
Fall Semester	中文課	186.75 時間	講義は月曜から金曜、10:10~11:00、11:10~12:00、12:10~13:00 の三連続。講義の内容としては、中国語と英語を用いて授業を進める。その日に学んだ文法、例えば道案内などは具体的に大学内の建物を使って学んだ文法で説明をしたりしてとても分かりやすく学ぶことができる。ほかにも、作文で自分の国を紹介したり自分の国の食べ物の紹介などをしたりして作文能力の向上も期待できる。習った文法を用いて自分で文を考えて発表をしたり、ゲーム形式で学んだりする。毎日その日の内容に基づいたもの、次の授業の予習などの宿題が出る。次に学ぶ文章の中の新出単語の漢字、教科書についている練習用のテキストなど。間違えている箇所や、漢字の書き方なども丁寧に教えてくれるため繁体字が書きなれていない日本人もしっかりと授業についていける。その単元の漢字テストやその単元全体のテストが行われ、しっかり単元が理解できているかを確認できるようになっている。中間試験と期末試験は試験以前に勉強してきたところまでが範囲となり、作文や並び替え、選択問題、正誤判断など。対策としては、それまでにやってきた単元の文法を再確認。ピンインを見ながら漢字を書き、漢字を見ながらピンインを書いて単語を再確認。それまでにやってきた単元ごとのテストを見返して、自分が間違えていた部分をもう一度解き直し苦手を克服しておいた。
		0.83(時間/回) ×15(回/週) ×15(週)	

1.3. 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

分からないことがあればすぐに先生に聞く。これは誰もが言うことではあるが、実際に行動できている人は少ない。これをしっかり実行することで自分の頭に残りやすくなり、しっかりと理解することができる。あとは、私が勉強していたのは語学なので口に出して読むということがとても重要になってくる。なので、全員で音読するときもしっかりと発音を気にしながら読んでいた。あとは積極的に発言をしていた。ノートを取るときも板書を写すだけでなく、先生が話している内容の中で分からない単語を書き出して先生に尋ねたり検索をしていたりした。日本人同士でも中国語で会話することを心掛けていた。予習は宿題ですでにやっちゃってしまっていることが多く、あまりできていなかったように感じるがその文復習を多くした。復習はその課の単語を後から見返して理解できるようにノートに漢字、ピンイン、日本

語の意味を書き写していた。語法も見やすいようにまとめて、どういう風に使うかなども実際の文章を書いて理解しやすいようにしたり、テストで間違えた部分を解きなおしたりしていた。ほかの授業もその日に取った内容を見返して理解できているかどうかを確認していた。

1.4. 語学力について

正直、自分では語学力が上がったという実感はあまりないが中国語を話すことに対する抵抗はなくなった。留学前は自分の語学力に自信がなく、ネイティブの人に中国語を話したら理解してもらえないのではないかという気持ちが大きく、話すことにとっても抵抗があり間違えたら恥ずかしいという思いがあった。しかし留学をしていると、私が日本人だとわかるとすぐに頑張って自分が知っている日本語を話して交流を図ろうとしてくれる人が多く、日本語ネイティブからすると日本語を懸命に話そうとしてくれることは嬉しいことだと気づき、話すことに抵抗がなくなっていった。注文時も、台湾は口で伝えることが多く自分が食べるためには中国語を話さなければいけないという状況に置かれるため、このことも話すことに抵抗がなくなっていった要因だと思う。留学前に私は HSK の 3 級を取得しているが、台湾で受けた TOCFL では Level 3 と Level 2 を取得した。Level 3 は HSK では 4 級 5 級と同じくらいだといわれているので、その面では自分の実力が上がったように思えた。留学中の取り組みとしては、日本語学科の学生とも中国語で会話することを心掛けていた。間違っている文法があればその都度教えてもらっていた。そうすると台湾の現代語も学ぶことができるため、教科書とはまた違った中国語に触れることができた。

2. 留学の成果を振り返って

2.1. 学修の成果

学修内容は主に語学のことになるが、語学を身に着けるためには書いて覚えるのもいいが、それだけでは話さなければいけない場面でスムーズに出てこない。今まで日本で語学の勉強で取られてきた授業方式を思い出すと、板書と読解がメインであり自分で考えて話すことはあまりない。これが影響しているのか、日本人は語学を不得意とする人が多い。私も正直英語はあまり話すことができないが、留学中のルームメイトと話さなくてはいけない場面では聞き取りはできるが自分が言いたいことは英語にできないことが多かった。なので、語学を勉強するときには人と話すことを増やしたほうが良いと考えて機会があればすぐに駆け付けて話をしていった。例えばお店の店員や、日本語の授業のボランティアなど。これによって、台湾人の友人が増えて中国語を口にする機会が増えた。授業の合間にも先生と中国語で会話をして、間違ったところは指摘してもらっていた。中国語を口にする機会が増えたおかげで話すことに抵抗もなくなった。

2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

反省点としては中国語を話すことは増えたものの、その日に習った文法をあまり使いこなせずに相手に理解してもらえないことと時間もかかったこと。友人同士の会話なので、そういう時にスムーズに理解できないと一人だけ会話に置いて行かれてしまう。そこでどういう意味と聞いてしまったら、一回一回会話が途切れるので迷惑をかけてしまう。なので、わかったふりをして笑ってごまかすことが多くなってしまっていた。アドバイスは、留学に来る前から中国語を口に出して読むことを意識してほしい。そ

うするとネイティブスピーカーに聞き取ってもらいやすくなるし、自分としても話すことへの抵抗がなくなると思う。留学生の中にもネイティブスピーカーは多いと思うのでそういうところで現地の人と話す機会を設けて中国語を話すことに対して苦手意識を拭い去っておいたほうが、最初から現地の友達ができやすいと思う。

2.3. 留学生活で得られたもの

先ほどから何度か述べているが、中国語を話すことへの抵抗がなくなったことが一番大きい。そのほかに留学生活で得た成果は、台湾人の授業への姿勢、日本の考え方が固定的だということ、日本と台湾以外の国の人へのイメージ、ルームメイトとどのようにうまく暮らしていくかなど。台湾人の授業への姿勢は日本の大学と違い、携帯をいじる人が誰もいないし席は前から座っていく。日本語学科の生徒はほとんど日本語がスムーズに話すことができ、ほとんど日本人と変わらない。日本の考え方が固定的というのは、女性は化粧をしないといけないと日本では固定的に思われているが、実際に日本人に女性は化粧をしないといけない理由を聞いてみるとマナーだからという言葉があげられるが日本と韓国以外のアジアでは今の時代メイクをしない人のほうが多い。台湾ではメイクをするのは特別な日だけか、毎日しているのは水商売の人だけだといわれている。化粧をするのはなぜマナーなのか、そういうことを考えさせられることが多かった。日本と台湾以外の国の人へのイメージが変わったのは、ルームメイトがインドネシア人でよく一緒に話すことが多かったが本当に親切で私がピンチの時はすぐに駆け付けてくれて、自分のことのように心配をしてくれる。体調が悪い時には自分のお金で買った食べ物を無償でくれたり、本当に優しかった。留学に来る前はインドネシア人に対してのイメージはほとんどなかった。しかし、今一番行きたい国はどこだと聞かれたらインドネシアだと答えるくらいに本当にいい国だと思うことができた。

2.4. 留学生活での反省点ならびに留学志望者へ生活面のアドバイス

私はルームメイトが日本人2人インドネシア人2人の編成でインドネシア人のルームメイトも日本人のルームメイトもいい人たちだったが、入寮の日に日本人だけの部屋に入った日本人留学生が事務の人に言って台湾人3人の部屋に変えてもらっていた。三か月したあたりに話をしていたら、とてもスムーズに中国語が話せるようになっていて来た当初は私と同じくらいの実力だったのにかなり語学力が向上していたので、もし留学に来て寮に住むことになったらルームメイトが日本人だけの場合部屋を変えてもらったほうが語学力が向上すると思うので、そちらをお勧めする。ほかには、人にされて嫌なことは人にしないという言葉があるように、寮で生活するうえで何かしら一つは嫌だなと思うことが出てくると思うがそれがルームメイト相手だったらすぐに伝えたほうが良いと思う。エアコンの温度が合わず寝不足になったり、夜寝ているときにルームメイトが夜遊びをして帰ってきて酔っている状態で大声でしゃべられて寝られなかったりなど色々なトラブルを耳にした。そういうことを我慢して過ごすのは、自分だけが損なのですぐに伝えて解決することがいいと思う。ほかに何か困ったことがあれば、日本語が話せる先生にすぐに相談をするか、日本の大学の留学担当の人に連絡を入れて解決をしたほうが良い。自分だけで解決をしようと、間違った方法で解決している場合があると思うので落ち着いて相談をしたほうが良い。あとは、部屋でくつろぐことも時には良いと思うが、外に目を向けて出かけたほうが色々なことが経験できると思うのでボランティアや課外活動などに積極的に参加することをお勧めする。

派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2020年1月16日

所 属	外国語学部	中国語学科	2 年次
派遣先大学	静宜大学		5 ヶ月間

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input checked="" type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
2	住居形態の詳細を教えてください。	(自分を含めた人数は4人、インドネシア人2人、日本人2人。建物は5階まであり、国際寮ではないので現地の学生も居住している。広さは二段ベッドが四つはいるくらいの大きさ。個別の部屋はない。)
3	入居時手続き	(入口に着くなり名前を確認されて、部屋番号と鍵を渡される。その後各自で1階に向かい寝具を受け取る際に、デポジットを支払う。)
4	費用 (月額)	3200 (NTD) (食費含まない/月)
5	支払方法	入居する日に1学期分を現金で一気に支払う。
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input checked="" type="checkbox"/> 乾燥機 <input type="checkbox"/> その他 (冷房だけ)
7	住居選択方法	<input checked="" type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ()
8	周囲環境	(学内寮の目の前にはFamily martがあり、日本人でも安心して買い物ができる。寮から歩いて7分の場所にバス停があり、そこからさらに5分ほど歩くと夜市など、飲食店が多く並ぶ学生街がある。)
9	アクセス	(バス停は大学の門の目の前にあるためアクセスがとても良い。学外寮はバスに乗って二駅のところにあるが、台中では10 kmまで無料でバスに乗れるのでお金は掛からない。)
10	留学中の住居に関して アドバイス	(学内寮も学外寮も留学生も現地の学生も関係なく居住するので、もし現地の学生とルームメイトになりたければ寮の事務の人に言えば部屋を変えてもらえる。場合によっては、全員が日本人の部屋もあり日常的に中国語を使う機会がなくなってしまう可能性が高い。私の友人は事務の人に言って台湾人3人とルームメイトになり、4か月後には聞き取れる単語がとても多く中国語力がかなり上がっていた。)

II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	購入しなかった
3	自宅のインターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）
4	大学内インターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）

III. 留学費用について

諸経費（1ヶ月の平均）		
1	宿舍費	3,200 (NTD) /月
2	食費	4,500 (NTD) /月
3	交通費	50 (NTD) /月
4	通信費	3,000 (NTD) /月
5	娯楽費	2,000 (NTD) /月
6	図書費	0 (NTD) /合計
7	学用品（教科書など）	5,500 (NTD) /合計
8	被服費	8,000 (NTD) /合計
9	医療費	0 (NTD) /合計
10	雑費・その他	500 (NTD) /合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳（留学準備期間含む）		
11	出願料・宿舍デポジット	550 (NTD) /合計
12	ビザ申請関連費	10,500 (JPY) /合計
13	航空券代（休暇時旅行費用は除く）	47,735 (JPY) /往復
14	その他	10,000 (JPY) /合計
15	留学全日程に要した総額（概算）	65,000 (NTD) /合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金（渡航時：15,000円） <input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード（銀行名：三井住友銀行） <input type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他（ ）	
17	お金に関するアドバイス	<p>日本でキャッシュカードを使い慣れていない人は、留学に来る前にキャッシュカードはどうやって使うものなのか確認しておいたほうが良い。私はお金を引き落とすときに、暗証番号を間違えてカードが停止され親に連絡をして新しいカードを作ってもらって送ってもらった。留学先によって現金しか使えないところ、カードしか使えないところがあるのでそれも確認してできれば現金もカードも持ち歩いたほうが良い。</p>

IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類	D19 (4か月分で 47,260 円)
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	日本から持参した方が良かったなと思う薬などがありますか？理由はなんですか？	パブロン、日本でも飲みなれているから。胃腸薬、やはり海外の食事なので自分の体と合わないものがある。その時に胃の調子をおかしくするので、胃腸薬があると良いと思う。

V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの
	薬、虫よけ、日焼け止め、ルーズリーフ、文房具類、洋服、リュック、化粧水、洗顔料、ファイル、歯ブラシ、ピンチハンガー、ドライヤー、ヘアアイロン
2	現地で購入したもの
	洗剤、鏡、バス用品、ハンガー、部屋履き、トイレトペーパー
3	(自分は持っていかなかったが) 日本から持っていったら便利だと思ったもの
	水筒、何にでも使えるカバン、タオルケット、パーカー

VI. 留学先で困ったこと

お金の欄でも書いた通り、暗証番号を間違えてカードが使えなくなったことがとても不安になった。ほかにも、私は SIM カードでなく Wi-Fi を借りて携帯を使う予定で留学先にきたので先に Wi-Fi を日本で借りて持ってきたが、借りた Wi-Fi が自分の確認ミスで日本でしか使えないもので台湾では使えなかった。これもまた親に相談して台湾の支店を調べてもらい台湾でも使えるものを新たに借りることができた。あとは、台湾は冬でも気温が 20 度くらいで暖かいが寒波が来ると一気に気温が下がる。日本人留学生の中にも上着や長袖を持ってきていない人が自分を含め多くいた。そのせいか風邪をひく人を多く見かけた。

VII. その他、後続の学生へのアドバイス

留学は言語だけを学ぶものでなく、実際に暮らしてみることでその国の生活や文化を学ぶことができる。大学の授業も日本の授業と違う方式がとられている場合もある。私の留学先の大学では、日本語学科の学生が受講する授業に日本人留学生在が参加してサポートをしたり、初級日本語などの授業では台湾人の学生と日本人留学生在がペアになって、日本人は日本語を台湾人は中国語を教えあう形がとられている。これによって台湾人の授業への姿勢も同時に学ぶことができる。携帯を授業中にいじる人はいないし、積極的に先生に質問をする人も多い。日本語学科の3年生と会う機会が多かったが、皆日本人と同じくらい日本語が話せる。しかし、私は中国語学科なのにも関わらず中国語があまり話せない。だからこそもっと勉強を頑張りたいという気持ちになり、授業も受け身にならず積極的に受けることができた。なので、留学に来るときは言語だけを学ぼうという気持ちだけでなく色々なところ、色々な機会を自分で見つけ自分の目ですべてを確かめてほしい。そうすることで自分の中の固定概念が変わったりする場合もある。サークル活動も私の留学先の大学では参加することができ、日本語が一切話せない現地の学生との交流もできた。神奈川大学は留学生在が多いことで有名だと聞いたことがあるが、2年間通っていても交流する機会がない。廊下ですれ違うだけであったり、一瞬見かけるだけで交流することができていなかったが帰国したら交流する機会があれば何でも参加していきたいと思うようになった。これは自分の中で、英語が話せないから英語話者と話しても通じないだろう、逆に困らせる。という固定概念が変化した結果である。その人の母国語が話せなくても、その人を理解して交流をしたいという姿勢が異国の地にいる留學生たちには嬉しいことだとわかることができた。留学は自分を変える一つのきっかけになる。だからこそ、毎日を大事に新たな発見を楽しんで過ごしてほしいと思う。